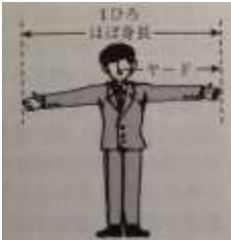
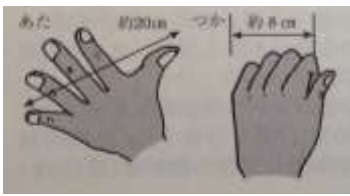
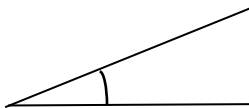


☆思考力・説明力を重視した「単元のめあて」を意識し、「授業のポイント」に留意することで、
児童が主体的・対話的に学びを深めて、学力の向上が図れるようにしましょう。
(K・・・啓林館、G・・・学校図書、T・・・東京書籍)

学 年	単 元	単元のめあて と 授業のポイント
1 年	⑬ 大きい かず 同様單元 G 1月⑭ T 1月⑭	◎単元のめあて(板書例) 10 が なんともある ^{おお} 大きい ^お かずの、かぞえかた・かきかた・くらべかた・けいさんのしかたを かんがえて、はなそう。 ◎授業のポイント - 数の表し方については、1位数の段階でp.29のように「0」を理解し、そこから十進位取り記数法に基づいて2位数の表し方を理解することを提案している。そして、9月号で既に「へや」を「くらい」と呼ぶことを知らせている。 - 本單元では、120 程度までの3位数について、数の構成や表し方を指導する。 〈学習1〉 10の「まとまり」で数えたり表したりする良さが感じられるようにする。 導入「棒取りゲーム～どちらがたくさんとったでしょう～」 2人組でサイコロの目の数だけ棒を取る。これを何回も繰り返す。 - 数が多くバラバラで、すぐには数えられないので『誰にも分かるようにして、学級チャンピオンを決める』等の数学的活動をする。 場の設定(10のまとまりを作る必要感) - 誰かに結果を報告しなければならない。(表記する必要感) 〈学習2〉 - 数学的な考え方を大切にして、100の表記の仕方を考えるようにする。 1が10集まると1つ左の部屋(十の位)に1繰り上がる。 ↓同じように考えて 10が10集まると1つ左の部屋(百の位)に1繰り上がる。 百の位の名称は知らせる。 100 までの数の表記を基に 120 ていどまでの3位数を、読んだり書いたりくらべたりできるようにする。 2位数までの数について、「30+20」や「50-20」等 10 を単位として加減の計算をしたり、「25+3」や「25-3」等 繰り上がりや繰り下がりのない計算をしたりする。

2 年 下巻⑬ かけ算の きまり 同様単元 G11 月⑭ T11 月⑫	◎単元のめあて(板書例) 九九のひょうをしらべて 九九のきまりを見つけたり、九九のひょうを^{ひろ}広げて ^{けいさん}計算のしかたを^{かんが}考えたりして、^{めい}せつ明しよう。 ◎授業のポイント ○のだんの九九では、かける数が1ずつ増えると、答えは○ずつ増える。 →具体的なきまりは 児童にとっては容易。 かけ算では、かける数が1ずつ増えると、答えはかけられる数ずつ増える。 →一般的なきまりは 児童にとってやや抵抗がある。 - かけ算(2)までの 具体的なきまりを見つける学習を基に、本単元では 一般的なきまりを見つける学習に進んでいく。 $2 \times 5 = 5 \times 2$ 図に戻して意味の違いを考える。  (ねらい) ・柔軟な思考力を養う。 ・4年の面積の学習に役立つ。 ・答えが12になるかけ算 (ねらい) ・数の多様な見方を養う。(2×6, 3×4, 4×3, 6×2) ・3年のわり算, 5年の約数の学習に役立つ。
下巻⑭ 100cm を こえる 長さ 同様単元 G1 月⑱ T1 月⑭	◎単元のめあて(板書例) 100cm をこえる^{なが}長さの ^{かた}はかり^{けいさん}方や^{かんが}計算のしかたを^{めい}考えて、せつ明しよう。 ※上巻④「長さ」では買った長さを大きく超える長さを測ったり 計算したりすることから、めあてがつかめるようにする。 ◎授業のポイント - mの単位の導入では、「30cm ものさしで測ると 面倒な場面」を設定する。 教室の床(縦、横)の長さを測る等の数学的活動をする。➡ 長い単位の必要感が生まれる - もっと大きい単位がいる(児童に考えてほしいこと)、単位(1m)の導入(知らせること) 1m=100cm 10cm のテープを10本並べたり、自分の体のどこからどこまでが1mになるかを調べたりして、量感がもてるようにする。 (1m=10cm の間違いが時々見られる。) - 自分の「ひろ」「あた」「つか」を測っておくと、 ・単位換算の誤りが少なくなる。 ・概測の力が高まる。  
3 年 下巻⑰ 三角形 同様単元 G11 月⑳ T 3 月⑱	◎単元のめあて(板書例) 三角形を なかま分けしたり かいたり 作ったり しきつめたりして、^{とうへん}二等辺三角形や正三角形のひみつを見つけて、せつ明しよう。 ※三角形の弁別(下に記載)の後に、単元のめあて(上に記載)がつかめるようにする。 ◎授業のポイント - 図形学習の段階(○図形を弁別し、図形概念を理解する、○図形を構成(作図)する。○図形の性質を理解する。○他の図形との関連を理解する。)を踏まえて、児童の意識がつながるような単元構成を考える。 - 仲間分けの観点を話し合う中で、弁別の観点を児童が自ら取り出せるようにする。そして、仲間分けの後に、単元のめあて(上に記載)がつかめるようにする。 - 角の大小は辺の長さではなく、角をつくる2つの辺の開き具合で比較することが理解できるようにする。また、二等辺三角形・正三角形の角について、性質に気付くようにする。そして、仲間わけの後に、単元のめあて(上に記載)がつかめるようにする。

		〈問題例〉 「どちらの角が大きいですか。」 (ア)  (イ)  ・p.67 では、しきつめることで、三角形と四角形など他の図形との関連に気付くようにする。																
	下巻⑱ 小数 同様単元 G11 月⑫ T11 月⑬	◎単元のめあて(板書例) 1 より小さい数の 分数とはべつの ^{あらわ}表し方・しくみ・くらべ方、たし算ひき算のしかたを 考えて、せつ明しよう。 ◎授業のポイント ・分数 $1/10$ を、小数 0.1 で表す表し方を知らせる。そして 0.1 を新たな単位として、十進位取り記数法の考えを 1 より小さい数に広げることで、0.1 0.2 1.3 のような小数を書いたり、読んだりできるようにする。 ・2.3 のような小数の各位が何こずつあるとか 0.1 が何こで 2.3 になるという小数のしくみを、十進位取り記数法に基づいて 書いたり読んだりできるようにする。 ・小数と分数を数直線にあらわして 大きさを比べ不等号を用いて 大小関係を示すことができるようにする。 ・整数の計算と同じように、位をそろえて計算できるようにする。 間違いが起きやすい例 $\begin{array}{r} \bigcirc \quad 7 \\ + 5.5 \\ \hline \end{array}$ $\begin{array}{r} \times \quad 7 \\ + 5.5 \\ \hline \end{array}$ 【小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説算数編 p.150～151, p.190～191 参照】 【算数教育指導用語辞典 p.179～182 参照】																
4 年	下巻⑬ 調べ方と 整理の しかた 見方 考え方を 深めよう 同様単元 G 6 月⑦ T 4 月②	◎単元のめあて(板書例) 2 つのことがらについて調べるときの、整理のしかたを考えたり、 表を読み取ったりして、^{せつ}説明しよう。 ◎授業のポイント ・目的を明確にして、身近なデータを集めたり 2 つの観点から整理したりする数学的活動を工夫する。 【例】「けがの少ない学校にしよう！」←目的 どこで どんな けがが多いか調べよう。(観点を 2 つにする。) ①表を作ること → ②表を読み取ること 「〇〇の場所では、□□のけがが多い。気をつけよう！」 ・右のような表では、表の意味を読み取って、以下の 2 点が理解できるようにする。 ①各項目の数を計算するだけでなく、「17」について、 「東町でみかんを選んだ人」のような項目の意味。 ②東町と西町のハイキングに行った人の合計と みかんとバナナを選んだ人の合計は どちらも 48 人で あること等、調べたことを 落ちや重なりなく整理する上での 合計の大切さ。 <table><tr><th></th><th>みかん</th><th>バナナ</th><th>合計</th></tr><tr><td>東町</td><td>17</td><td></td><td>25</td></tr><tr><td>西町</td><td></td><td></td><td>23</td></tr><tr><td>合計</td><td>30</td><td>18</td><td>48</td></tr></table>		みかん	バナナ	合計	東町	17		25	西町			23	合計	30	18	48
	みかん	バナナ	合計															
東町	17		25															
西町			23															
合計	30	18	48															
	下巻⑭ 分数 同様単元 G 1 月⑪ T12 月⑩	◎単元のめあて(板書例) 1 より大きい分数の 表し方・しくみ・くらべ方・たし算ひき算のしかたを 考えて、^{せつ}説明しよう。 ◎授業のポイント ・1 を等分することによって、真分数・仮分数ができることや 整数と真分数の和から帯分数ができることが、理解できるようにする。$5/2$ は $1/2$ が 5 こで できているという分数の仕組みや分母の同じ $3 1/2$ と $7/2$ は $1/2$ の個数で大きさを比べることが理解できるようにする。																

		・和が1より大きくなる同分母分数の加減の計算は、単位分数をもとにすれば和が1以下の場合と同じように整数で計算できることが理解できるようにする。 ・$\frac{1}{2}=\frac{2}{4}$のように、等しい分数を複数の仕方で数直線に表示する数学的活動を行う。その際、形式的な操作で等しい分数を見つけるのではなく、単位が半分になれば個数が2倍になるなどの単位と個数の考えから、等しい分数が理解できるようにすることが大切である。
5 年	下巻⑭ 円と 正多角形 同様単元 G12月⑮ T2月⑰	◎単元のめあて(板書例) 円を使って 辺の長さがすべて等しい多角形をかいて 特ちょうを見つけたり、円の周(まわり)と直径の関係を調べて きまりを見つけたりして、説明しよう。 ◎授業のポイント ・円を基に正多角形をかく活動を通して、正多角形の性質が理解できるようにする。(円の中心をn等分すれば、n個の二等辺三角形ができる。) ・円周の長さや直径の長さを測定し、円周の直径に対する割合を帰納的に考えることにより、「円周÷直径＝円周率(3.14)」が実感できるようにする。そして、「円周÷直径＝円周率」より「円周＝直径×円周率」を導いて、円周の長さを求めることができるようにする。また、直径と円周が比例関係になることが、理解できるようにする。
	⑮ 割合の グラフ 同様単元 G2月⑱ T1月⑮	◎単元のめあて(板書例) 割合を表すグラフのかき方・読み方を調べて 特ちょうを考えたり 割合を表すグラフを使った問題の解き方を考えたりして、説明しよう。 ◎授業のポイント ・帯グラフや円グラフでは、全体と部分の割合、部分と部分の割合が分かることが理解できるようにする。 ・複数の帯グラフを比べるとときには、割合の変化だけでなく 全体の数を記入することで、割合が増えても(減っても)全体の数が減れば(増えれば) 部分の数が減ったり(増えたり)、割合が同じでも全体の数が増えれば(減れば) 部分の数が増えたり(減ったり)することが、理解できるようにする。 ・統計的な問題解決の場面では、①問題を設定する②計画を立てる③データを集めて分類整理する④グラフや表に表して分析する⑤問題の結論をまとめる。この①～⑤の手順を経験することが、大切である。
6 年	⑬ およその 形と 大きさ 同様単元 G9月⑨ 10月⑩ T10月⑩	◎単元のめあて(板書例) 形をおよそでとらえ、およその形の 面積や体積の求め方を考えて、説明しよう。 ◎授業のポイント ・本単元では、およその形を捉えたり 概則し求積したりする数学的活動を通して、算数のよさが感じられるようにする。 (例) 校庭・運動場・学区 ・およそ どんな形と見たり およその大きさ(長さ・面積・体積)を考えたりすることが大切である。
	見方 考え方を 深めよう (3)	◎単元のめあて(板書例) 問題文の意味を 図を使って整理し、解き方を考えて、説明しよう。 ◎授業のポイント ・全体を意図して、部分の割合や和・席に着目して解決する問題である。難しいので、絵・図・線分図を用いたり描いたりしながら解決できるようにする。
	すぐろく	・条件に合わせて 順序よく考えるようにする。
	わくわく SDGs	・日常の事象を 算数の問題として捉えて、解決できるようにする。

※「単元のめあて」枠内の漢字にルビをふっている箇所があります。ひらがなと漢字の どちらを使うかは
学習進度などを勘案して 指導者で判断して下さい。

〈お知らせとお願い〉

「算数授業のめあてとポイント」「算数教育 情報コーナー」等を ご覧いただき
日々の実践に役立てて下さい。

なお, これらについての ご意見ご質問および「算数教育ネットワーク岡山」の活動への参加希望は,
seiden_atmark_po.harenet.ne.jp

(スパム対策です。お手数ですが, _atmark_ を@に直してください。)